



RoCCIJa ルーマニア公式訪問公式会合報告(要約)

1. 期間:平成 27 年(2015 年)10 月 11 日(日)(成田出発)~平成 27 年(2015 年) 10 月 19 日(月)(成田到着)

2. 公式訪問団構成員 (現地にて部分的に参加したメンバーも含む。)

団長:江口 克彦参議院議員・在日本ルーマニア商工会議所特別顧問

随行者:吉村 朝貴在ルーマニア日本国大使館経済班長・一等書記官

団員:

酒生 文弥 在日本ルーマニア商工会議所会頭(他 3 名のルーマニア人理事と理事候補・他 1 名)

末岡 武彦 在日本ルーマニア商工会議所事務局長

(他 2 名のルーマニア人日本語・英語・ルーマニア語アシスタント)

荒木 義修 武蔵野大学教授 在日本ルーマニア商工会議所個人会員候補

池田 幸也 池田電機 PV 顧問 在日本ルーマニア商工会議所法人会員候補(他 2 名)

高木 保之 在ルーマニア日本商工会議所副会頭

3. 旅行企画実施・要人スケジュール

株式会社GH3ルーマニア

4. 滞在場所

ブカレスト・グランドホテル・コンチネンタル

5. 訪問先・面談先代表と主な会合内容

(1) 10/13(火) 11:00-13:00

ルーマニア輸出入銀行(将来名称:ルーマニア開発銀行)ヴァシル・セカレス総裁

・ルーマニア輸出入銀行の株は 90%を財務省が保有するが、民間銀行であり、政局・省庁人事異動に関わらず、一貫したサービスが可能。企業向けであり、リテールはやっていない。

・総裁は東京に行き、JETRO・経団連とも会合、日本からの投資など、協力関係について提案している。

・ルーマニアへの投資額の 95%が外資。1.5%を占めるようになったが、これを増やし、ルーマニア固有の資



本を育てる。

- ・地政学的に欧州中心だが、アジア・太平洋では日本との関係(日本への輸出・日本からの FDI など)を強化し、学びたい。EU 構造改革資金もあるが、日本からの参加も期待。
- ・インフラ整備が急務(ハイウェイ・港湾・ドナウ川水運)。特に、モルドバなど東部が遅れている。ハンガリー以西とつながる必要あり。石油やガスなどの天然資源も有効利用したい。ICT・自動車・農業・観光など、競争力のある産業を育成したい。

(2) 10/13(火) 15:00-17:00

ルーマニア商工会議所ラズバン・ロッシュ海外関係事務所長

- ・我々は 46 の地方組織を束ねる全国組織。日本企業も間接的なものや、共同経営も含めて 279 社が投資・進出している。みずほ銀行もパリ支店を経由して投融資をしてくれるが、ルーマニアにも直接進出して欲しい。
- ・EU が構造改革資金を 5 兆円ほど出しているが日本にも参加して欲しい。欧州以外の貿易取引が 15% しかない。EU 以外では 3 割であるが、これを 7 割にしたい。
- ・末岡:(商工会議所のルーマニア支援構想を説明)
- ・酒生:(ローマニア日本語名称変更説明)
- ・ローマニア名称変更は賛成。
- ・農業や港湾、運河など、セクター毎の投資事業について英語版が出来たら提供する。サイトでも公開。
- ・酒生:RoCCIJa のサイトでも開示したい。
- ・ルーマニア人理事:大学間の交流も増やす。
- ・酒生:アンテナショップも必要。デパートでルーマニア・フェアを行う。
- ・日本との直行便も実現すると良い。日本に最も近い EU の国として日本 Day を開催する。
- ・EU 内で死体解剖が出来るのはルーマニアだけなので、ルーマニアへの医療研修ツアーも可能。

(3) 10/14(水) 10:00-11:00

ルーマニア上院議会ルーマニア日本友好議員連盟セルバン・ミハイレスク議長

- ・日本大使館ともお付き合いさせていただいている。来年 5 月に議連として訪日予定。
- ・1995 年から直航便設置の交渉を日本の国交省や民間航空会社と行っているが進展が無い。直航便を実現してほしい。
- ・コンスタンツァ港コンテナ・ターミナル整備について、住友や日立にもお世話になったが、更に整備して欲しい。
- ・日本の大使とも協議したが、ルーマニアでの会社設立をし易くするために法律を改正する必要がある。この点も協力して欲しい。



- ・現在のビジネスでもどんな提案でも待っています。電車部品、農業、インフラファシリティ、IT、輸送など。
- ・地下鉄も JICA を通じた ODA 案件が 2014 年にあったが、総額 41 億円うちの、設計しか行っていない。本体工事を 5 年後までに実施したいので協力願いたい。一つの駅の駅名はトウキョウで、周辺に桜を植えている。
- ・まだ多くの懸案事項があるが、将来に向け解決したい。商工会議所は益々重要になる。お時間があれば、ロムエキスポも見学して下さい。

(4) 10/14(水) 13:00-14:00

ルーマニア政府海外投資官民連携部門アレクサントル・ナスターセ部門長

- ・地下鉄プロジェクトは様々なプロジェクトの一つであり、投資資金は EU、ルーマニア政府、民間から提供され、このバランスの下でプロジェクトが実行される。我々は官民連携を促進する役割を持つ。
- ・全体では、150 M ユーロ～1000M～1200M?今までは 15%をルーマニア政府が負担している。
- ・確かにユーロのファンドでカバーされていない部分を民間からのローンで賄うかどうか、検討しなければならない。財務省や国土交通省と協議して決める。
- ・みずほ銀行や東京三菱 UFJ 銀行など日本の民間企業からの資金調達方法をどうするかも決める必要がある。
- ・(ルーマニア経済状況説明 2014-2020)
- ・2015 年はインフレ率 0%、失業率 6.8%達成。天然資源、電気代などのコストが安い。大学 103 校は総て国立。労働コストは EU で 2 番目に安い。法人税率 16%
- ・ドナウ川など水運整備が課題。
- ・ソフトウェア会社は 9000 有り、200Mユーロの売り上げ。
- ・私企業が投資する場合の政府からの援助は 35%-50%
- ・EU ファンド(2014-2020)は総計40Bユーロ 構造改革 21.5B ユーロ、農業 17.5B ユーロ
- ・EU ファンド消化率は 2015 年、53.57%に上昇している。

(5) 10/14(水) 14:30-15:30

在ルーマニア日本国大使館保坂 英博公使参事官

- ・ルーマニアの特徴:高成長、低賃金、エネルギーが豊富。800 万～1100 万ヘクタールの農地があるが、機械化率が低い。IT 産業は強い。
- ・冷戦後は米国と連携。警察力は社会主義時代から温存。トルコの支配があった結果、1%のイスラム教徒が存在。しかし、イスラム教徒と対立せず。IS のテロは入らず治安は良い。



- ・リスクは開発の途上である事。一人当たりの GDP が 1 万ドル程度。上水道普及率は 90%だが、漏水が多い。ブカレストですら 20%が漏水している。下水道普及率 50%。地方は溝を作って汚水を排出している。水を使えない学校が 4 校に 1 校ある。
- ・ルーマニアが EU に加盟したので ODA を止めてしまったがニーズはあり、続けるべきだった。EU 資金の消化率は 50%
- ・法整備が不十分。半分がまだ共産党時代のものを踏襲。昨年民法を改正し、司法関係者を再教育。人員不足で裁判が遅い。
- ・政治家や行政の能力が不十分。メディアが弱い。政策立案能力、説明責任が弱い。5 年、10 年計画が無い。運輸マスタープラン、経済プランが無い。従って EU 産業政策に応えられない。だから特定の支援をしようにも具体化出来ない。
- ・日本人だからと言って不愉快な思いはしない。欧州文化遺産があり、住んでいてアメニティが高い。
- ・流出する人材をいかに戻して国家建設に役立ってもらうかが課題。医者はフランスに、エンジニアはドイツに流出。アメリカはブレイン・トラフィッキングなどと言われている。ルーマニア帰国政策が必要。定年退職者に母国へ帰ってもらうとか。日本の病院でルーマニアに進出する所もある。給料が安くても働きたい人がいる。

(6) 10/14(水) 16:00-17:00

ルーマニア経済通商観光省フローリン・ヴォディツァ大使

- ・酒生:ルーマニアに存在する企業との関係を強めるのが課題。
- ・極真空手で鍛錬している。日本とルーマニアは互いに分かり易く指導しやすい国だ。それが今回の会合の最大の理由だ。靴を脱ぐ習慣から友人に敬意を表する事、勤勉さ、文化の多様性尊重まで共通点がある。武士道を始め、日本の歴史、日本の国際貢献に敬意を表する。
- ・実際の日本・ルーマニア経済交流は現実の数字、事実に基づき対応したい。日本にはルーマニアにオポチュニティがある。投資は膨らんで来たが、リターンばかりでなく、リスク対応も重要。ルーマニアはEUに加盟、国内は安全・快適でフレンドリーである。
- ・日本大使館は、ルーマニア政府に協力的である。又、ルーマニアのビジネスの発展についてはルーマニア商工会議所と良く協議している。
- ・末岡:(商工会議所のルーマニア支援構想を説明)
- ・酒生:(「ローマニア」日本語名称変更説明)

(7) 10/15(木) 13:30-14:00

政治行政研究国立大学(SNSPA) ヴァシル・セカレス学長(兼ルーマニア輸出入銀行総裁)

- ・私は 12 年間戦略・安全保障研究に従事して来た。第二段階の活動として大学間の交流を行いたい。東



京とブカレストで国際会議を開催している。国際安全保障・公共行政・経営(マネジメント)について日本の経験を学びたい。

- ・相互の講座の交換、研究者交換、共通プロジェクトなど、新しい交流を行いたい。
- ・具体的なプログラム・アイデアを提出する。例：共通研究開発プロジェクト・政治家間の交流・商工会議所間の交流など。

(8) 10/15(木) 14:00-16:30

政治行政研究国立大学(SNSPA)アンドリーア・ミタン経営学部広報コーディネータ

- ・講義1:「国家繁栄と道徳心」:講師:江口 克彦
- ・講義2:「イノベーション戦略と実践」:講師:末岡 武彦
- ・講義3:「ローマとヤマトの絆」:講師:酒生 文弥

(9) 10/16(金)10:30-11:30・酒生・末岡

ロムエキスポ S.A.ミハイ・コストリスジェネラル・マネジャー

- ・酒生:在日本ルーマニア商工会議所として訪問させていただく事となったので宜しくお願いします。
- ・あなた方が興味ある産業分野は何か?
- ・末岡:ルーマニア企業による独自のテクノロジーだ。日本からも自動車部品やエレクトロニクス企業がルーマニアに進出しているが、外資進出の中でルーマニア人が経験を積み、独自の技術を発達させているかも知れない。その様な企業があれば、日本にも紹介したい。
- ・我々は全ての産業分野について数日間の展示会を行っている。国際的な展示会であり、エネルギー・イノベーションナテクノロジー・研究開発・プラスチック分野など様々の分野で開催している。(今回は国際テクノロジー・フェア)
- ・末岡:産業分野で言うと医療やメカニカル部品やソフトウェア、農業などに関心がある。
- ・酒生:私も松下幸之助や松下電器(現パナソニック)と関わりのあった団長の江口克彦氏から大いに学んだ。産業の相互交流を推進したい。
- ・ルーマニア人理事:ロムエキスポを東京でも開催したらどうか?
- ・酒生:私は10月一杯滞在しているので、要求リストを出して欲しい。打合せをしよう。
- ・(ロムエキスポ説明)ルーマニア商工会議所の重要な子会社。農業・食品・包装・防衛・医療・消費財・旅行・環境・再生可能エネルギー・自動車など、あらゆる産業分野の展示会を行っている。11のパピリオン、100のホール、2000の駐車場スペースがあり、ルーマニア最大の展示会場施設である。
- ・酒生:外国要人サイン帳に記帳

(10) 10/16(金)11:30-13:00 16:00-17:00・酒生・末岡・荒木



ロムエキスポ(生産機械分野中心)見学

- ・日系企業の独自出店もあるが少ない。
- ・殆どがドイツ系企業。一部フランス企業もある。
- ・ルーマニア企業で製造を手掛けているのは少ない。販売商社が多い。
- ・酒生:日系企業との親睦。
- ・末岡・荒木・ルーマニア人理事・アシスタント:会場でルーマニア製造企業・流通企業を探し、日本企業との交流促進を提案。

(11) 10/16(金)11:30-12:30・・・江口・吉村・荒木

マキタ EUS.R.L.内川 貴嗣経済ディレクター

- ・販売台数と従業員数は右肩上がり順調
- ・品質とアフタサービスで優位
- ・他の日本企業のルーマニア進出の励みになりたい。

(12) 10/16(金)13:00-14:00・・・江口・吉村・荒木

マキタ EU S.R.L.今井 裕律ジェネラル品質マネジャー

- ・工場見学
- ・現地人600人を日本人11人で管理しているとの事。
- ・周辺地域(ブラネスチ)へ雇用で大貢献との事。

(13) 10/17(土)13:30-15:00・・・酒生・末岡・荒木

ブラショフ日本武蔵野協会ジオルジアナ・ブラボイセンター長

- ・センター長・運営者・日本語講師・ブラショフ市民・現地在住日本人の挨拶を受け、親睦。
 - ・酒生:武蔵(旧国名・武人名・戦艦名)を説明。
 - ・末岡:武蔵野の意味を説明。
 - ・荒木:武蔵野大学本校が武蔵野市に近接している事を説明。
 - ・酒生:在日本ルーマニア商工会議所として、ブラショフ市民の日本訪問があれば可能な限りの支援を表明
 - ・和服・浴衣・祭りの装束をアレンジした独特の振付によるブラショフ女性4人による現代日本舞踊を鑑賞
- 以上